

大学

創造表現学部 創造表現学科
創作表現専攻

メディア・コミュニケーション演習Ⅰb
小倉 史講師

映画芸術を学ぶなかで、上映会を企画。
映像言語を中心とした実践的表現力を
豊かに育みます。

「映画」を研究する小倉ゼミでは、映画芸術の文献を読み、映画理論や映画史について深く学んでいます。映像分析やディスカッションを積み重ねながら、映画や映像表現に関する企画・制作活動にも取り組みます。今年度の3年生は、フィルム映画の上映会を企画。「学内にある35ミリフィルム映写機を、自分たちの手で動かしたい」という思いから、映写技師の方に指導を受けながらフィルムを掛ける練習に励み、上映作品の選出、当日のプログラムや集客方法の検討などに取り組みました。小倉先生は「映画を観るだけではなく、日頃の研究成果を、フィルム映画という文化を継承するという営みにも活かしてほしい。結果として彼らの思考力や行動力、コミュニケーション力が磨かれることを願っています」と一人ひとりの成長に期待しています。



愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

大学

グローバル・コミュニケーション学部
グローバル・コミュニケーション学科
English Skills IV (Academic Writing)
DICELLO Cheryl講師

英語で考え、相手に的確に伝える——
その力が、一人ひとりの可能性を広げます。

日本では「随筆」と捉えられることが多い「essay」は、本来、「小論文」「評論」などを意味する言葉です。1年次の必修科目である「English Skills IV」では、2年次以降の専門性の高い学修・研究に欠かせない、学術的なessayを書くための英語運用能力を磨いています。担当するチェロ先生が大切にしているのは「体験」。海外で書かれた論文の講読、文献検索、研究手順や図・グラフの解説など数多くの実践を交え、学生たちは英語の4技能「書く」「読む」「聞く」「話す」力を楽しみながら伸ばします。チェロ先生は「学生たちには「論理的な文章も、英語で書けるようになった!」という自信をつけてほしい」と一人ひとりの成長に期待。自分の意見を筋道立てて考え、相手に伝える力が、学生たちの学びの幅を大きく広げます。

